

特集：祭りと地域コミュニティ

[西日本鉄道が育てる新しい「地縁」のかたち]

アジアの交流拠点、
国際観光都市
FUKUOKAへ

長い歴史の中で培われた伝統・文化、近代的な都市としての魅力と美しい自然をあわせ持つ福岡。

福岡市を訪れる観光客数が、過去最高の記録を更新している。

特に外国人入国者数の伸びが大きく、福岡市では「国内外との交流による経済の活性化」を目指し、さらなる観光客増加に向けた取り組みを進めている。

文●香田朝子／撮影●三好邦次
写真提供●福岡市福岡市 経済観光文化局
観光産業課長

三宅宏治

Koji MIYAKE

世界一のおもてなし都市を目指す

——平成25年の観光統計によると、福岡市を訪れた観光客数は、過去最高の記録を更新しています。

三宅 平成25年の福岡市の入込観光客数は、対前年比2・4%増の1782万人で、2年連続で過去最高を更新しました。このうち宿泊客は、対前年比3%増の539万人となっています。

特に、外国人観光客数の伸びが大きく、福岡空港・博多港からの外国人入国者数は、平成25年が対前年比11%増の90万人、平成26年には120万人を記録しました。これは対前年比33%増に相当

します。円安の進行で、ほとんどの国・地域からの入国数が増えています。特に訪日意欲が回復した中国を筆頭に、韓国、香港、台湾、タイの伸びが大きく、クルーズ客船の寄港地上陸許可を含め、この5地域で27万人以上の増加となっています。

現在、人口減少社会にどう対応していくかが国の将来を左右する大きな問題として議論されています。福岡市は、今後20年間は人口増加が続く見込みですが、高齢者人口は確実に増加していき、将来にわたり、都市活力を維持していくためには、交流人口を増やし、地域経済の活性化につなげていく取り組みが必要です。

特に観光産業は、人々が移動し、食事や買い物など、さまざまな経済活動を伴うことから、福岡市民の約9割が従事する第3次産業を中心に、好影響を受ける産業の裾野は広く、福岡市全体に活力をもたらし、成長への原動力となります。

平成24年、福岡市は約25年ぶりに、延べ1万人以上の市民の皆さんと一緒にマスタープランを策定しました。その中で、都市経営の基本戦略を「都市の成長」と「生活の質の向上」の好循環を創出することとし、「人と環境と都市活力の調和がとれたアジアのリーダ都市」の実現を大きな目標として掲げています。そして、平成25年には、「福岡観光・集客戦略2013」を策定し、「世界No.1のおもてなし都市・福岡」の実現に向け、観光やMICE振興に力を入れています。

——観光振興については、どのような取り組みに力を入れていらっしゃいますか。

三宅 四つの力点を中心に、おもてなし観光都市・福岡の将来像を実現していきます。

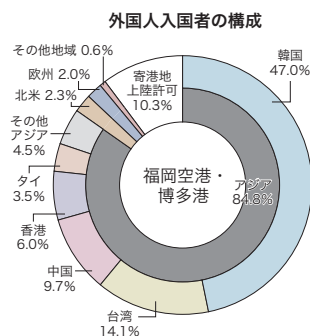
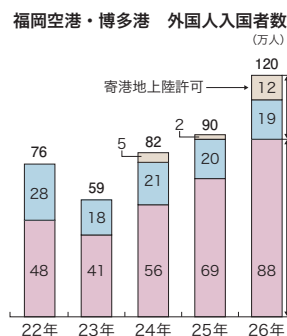
まず一つは「誘客」で、効果的なプロモーションの展開を進めています。特にインバウンドについては、福岡空港から直行便が就航しているアジアの有望市場

や欧州直行便が就航した欧州市場でのプロモーションにも注力しています。

外航クルーズ客船についても、港湾局がCIQ機能を持つクルーズセンターを整備するなど、受入体制を整え、誘致に力を入れています。博多港は、外航クルーズ客船の寄港回数が昨年は99回となり、全国一となりました。今年は予約も加えると280回以上と昨年の約3倍となる見込みです。

二つ目が「MICE」の振興です。福岡市は、日本政府観光局（JNTO）の国際会議統計では、東京に次いで5年連続2位となっています。コンベンションのお客さまは消費単価が高く、大きな経済波及効果があります。また海外の訪問客から「福岡はよかった」という評価をいただければ、「フクオカ」の名前を世界に広めることにもつながります。

国際MICEを誘致して、福岡市のブランド力を上げる。川端商店街や福岡城を会場にレセプションを開催したり、国家戦略特区による道路占用許可基準の緩和を活用して公道上で学会の懇親会を開催するなど、ユニークベニューの拡充にも取り組んでおり、官民一体となって、戦略的なMICE誘致や開催支援の強化



※1 CIQ

※2 MICE

※3 ユニークベニュー

税関 (Customs)、出入国管理 (Immigration)、検疫 (Quarantine) の頭文字。出入国の際に必要な三つの手続きの略称。

会議 (Meeting)、報奨・研修旅行 (Incentive Travel)、国際会議 (Convention)、展示・見本市、イベント (Exhibition/Event) の頭文字。

公園、美術館・博物館、商店街や歴史的建造物、史跡などを活用して MICE のウェルカムパーティーや市民交流をすること。



来福客に人気の FUKUOKA OPEN TOP BUS

を進めています。

そして、三つ目が「魅力づくり」です。シヨッピングやグルメなど、すでに高く評価いただいている都市型観光の魅力をしっかりと磨き上げていく。博多湾など、海に開かれたまち・福岡の個性を活かした魅力づくりも同様に進めています。

また、福岡には数多くの歴史的資源があります。これまで観光にうまく活かしきれないところがありました。そこで、復元計画が進められている福岡城跡内に福岡城の歴史を模型や古地図で紹介する「福岡城むかし探訪館」を開設しました。また、AR技術を活用したデジタル回遊ツアー「鴻臚館・福岡城バーチャル時空散歩」を実施しています。これは、タブレット端末を使って、CGで再現した当時の福岡城や鴻臚館の姿を見ながら観光するもので、黒田官兵衛・長政父子が過ごした城内の様子や、彼らが

眺めたであろうかつての福岡の街並みなどを楽しむことができます。

最後の四つ目が「観光の産業化」で、福岡観光の多数を占める日帰り客を宿泊観光にチェンジしていく。消費単価増を目指す、「もう一泊、もう一品、もう一楽しみ」の取り組みを進めています。

この四つを力点に取り組みを進め、平成34年には入込観光客数2000万人を達成することを目標としています。

来福客に喜ばれる、お祭り好き気質、

——「祭り観光」も福岡の大きな魅力です。

三宅 祭りは、多くの来福客を集める重要な観光・文化資源です。福岡市は現代的な都市ですが、歴史的・文化的な祭りや史跡を大切に受け継いでいます。5月の「博多どんたく港まつり」、7月の「博多祇園山笠」、9月の筥崎宮の「放生会」の博多三大祭りのほかにも、歴史ある祭りが数多くあります。

また、平成12年に天神地区の商店主が有志となって始めた祭りが、市民や地域の支援を得て3000人規模の参加人数を集めるまでになった「ふくこいアジア祭り」や、「アジアと創る」をテーマに



福岡城には天守閣がなかったというのが通説だが、福岡城バーチャル時空散歩では、映像で「想像の天守閣の姿」を楽しむことができる。下図は天守閣からの江戸時代の眺望。

若い世代に向けてさまざまなイベントを展開する「アジアンパーティ」、他にも「ミュージックマンス」や「中洲まつり」など、1年を通じて多彩な祭りがあり、多くの観光客を集めています。

こうした祭りやイベントを、来福客も市民と一緒に楽しむ、まち全体が盛り上がる福岡ブランドとして、盛り立てていきたいと考えています。

大陸文化の窓口として、交流の歴史の中で発展してきた福岡には、訪れる人を喜んでおもてなしする開放的な気質が今でも息づいています。皆で楽しもうという「お祭り好き」気質は、まさにそんなおもてなしの心に通じるもので、福岡市を訪れる人たちからは、他都市にはない魅力だと喜んでいただいています。

——観光都市・福岡の実現に向けて、市民や民間事業者には、どのようなことを期待されていますか。

三宅 市民・民間・行政がそれぞれの立場や役割を認識し、積極的に連携しながら観光やMICEの推進を図っていき

いと考えています。市の外郭団体である福岡観光コンベンションビューローが総合ディレクターとして取り組みを進め、事業者や施設の皆さんは最前線のおもてなしの主体として活動する。市はまとめ役、サポート役として施策を企画・立案、観光の視点に立って関連施設の整備やまちづくりを進めていきます。そして市民の皆さんには、福岡の良さを誇りに、おもてなしの心を持って来福客との交流を図っていただきたいと思います。

福岡市では、観光都市のシンボルとして、平成24年から2階建てオープントップバスを使用した市内観光3ルートの循環バス路線「FUKUOKA OPEN TOP BUS」を西日本鉄道が運行しており、将来的には天神地区・JR博多駅周辺とウオーターフロントの3拠点を結ぶ「都心循環BRT」も計画されています。

また、市民の皆さんに「福岡通」となってもらい、福岡の魅力発信の担い手として活躍していただこうと、「福岡検定」も実施しています。

古来より、この福岡の成長エンジンは「交流」でした。今でも、人が集い、交流することで、都市の活力が生まれています。今、福岡市を次のステージへと押し上げる「FUKUOKA NEXT」を推進しています。アジアのリーダー都市を目指し、市民の皆さん、民間事業者の皆さんとともに、観光・MICEの分野でもさまざまなチャレンジを行い、福岡市を次のステージへと飛躍させていきたいと思っています。